

令和6年度 認知症活動報告(認知症地域支援推進員)

【資料4－1】

<令和6年度 認知症地域支援推進員の活動計画>

	目 標	具体的活動
I	認知症当事者の居場所づくり	(1) あしやの会(認知症当事者の会)の開催検討 (2) 認知症当事者以外も含めた拠点づくり
II	認知症の人への支援体制構築に向けた関係機関との連携会議の開催	(1) 医療関係者との連携構築 (2) 若年性認知症の方の支援
III	認知症に関する正しい知識の普及啓発	(1) アルツハイマーデーイベント (2) ステップアップ講座開催 (3) 専門職向け研修

I 認知症当事者の居場所づくり

参加者が少ないため、市民や専門職に調査を行い、今後の会の在り方を検討する

(1) あしやの会の開催検討

【①現状】

奇数月の第三金曜日にイベントを企画、開催をしているが、当事者含め参加は少ない。

【②課題と目標】

(課題)・あしやの会を知られていない。

・チラシだけでは周知できていない。周知方法を考える必要がある。

(目標) 市民や専門職を対象に調査を行い、あしやの会を今よりも良くし、認知度を高める。

【③対象者】

市民と専門職

【④具体的な取り組みとスケジュール】

*** 奇数月のあしやの会は継続実施しながら**

7月13日保健福祉フェアにて、市民向けにアンケート実施。

8月専門職向けにアンケート実施。

9～10月アンケート集計

11月～1月アンケート結果をもとに、今後の会の在り方を検討する。



I 認知症当事者の居場所づくり

【活動期間】

2024年5月～2025年3月
奇数月の第3金曜日に開催

【参加人数】

開催月によって、バラつきあり。

当事者が2～3名

ご家族が5～6名

専門職など関係者が7～8名

【結果・課題】

参加をしてくれる方々は定着をして来ているも、新たに参加して頂ける方は、なかなか来られない。

アンケート結果からわかるように、住民からの関心が高い一方で参加に積極的ではないため来年度以降に内容に関して修正を行っていく必要がある。

【具体的な取組み】

・あしやの会に対して福祉フェア時に市民向け、居宅介護事業所の介護支援専門員向けにアンケートを実施。



市民からは、約30人より回答あり、半数以上が「あしやの会」に興味があり、自身や家族が認知症になった際は参加したいとの回答があった。

居宅介護事業所21事業所計66人より回答あり。そのほとんどが「あしやの会」を知っており、51人が「案内したことがある」と回答があった。しかしながら、案内をしたが参加に積極的ではないといった回答があった。

・他市の若年性認知症当事者の会の見学を実施

・あしやの会では、当事者の「したいこと」を中心に会話をを行い一緒に取り組めるスポーツや珈琲の入れ方、麻雀等を行った。



I 認知症当事者の居場所づくり

～ あしやの会@ふらっと ～

【活動期間】

令和6年12月より第2水曜日、コミュニティスペースふらっとにて開始
当事者の希望から月1回第2水曜日の毎月開催でスタートする

【参加人数】

第1回:2024年12月11日(水) 当事者:7名 ボランティア2名 スタッフ4名 計13名
第2回:2025年 1月8日(水) 当事者:6名 ボランティア2名 スタッフ4名 計12名
第3回:2025年 2月12日(水) 当事者:名 ボランティア 名 スタッフ 名



【具体的な取組】

- ・「自分たちがやりたいことができる」居場所として活動をスタート。
- ・自分たちで何でもやるを合言葉に当事者が主体的に活動参加できる場として支援
- ・「お昼ごはんプログラム」を実施。買い物から調理までをすべて自分たちで行い、参加者全員で昼食会(新年会)を行った



【結果】

- ・スタッフの運営支援だけでなくボランティアさんにも会の運営支援に関わってもらい、参加者全員が同じ立場で会を楽しむことが出来た



【課題】

- ・細く長く、継続的な開催ができる体制づくりの検討(ボランティアの有償化等)
- ・市民(住民)への周知・広報活動、専門職に向けての発信



I 認知症当事者の居場所づくり

それぞれの認知症カフェが活性化するように、認知症カフェ同士の交流機会を作る

(2) 認知症当事者以外も含めた拠点づくり

【①現状】

各圏域1つは認知症カフェがあり、認知症当事者・地域住民が集える場がある。
認知症カフェに関わるスタッフ同士の交流は、少ない。

【②課題と目標】

(課題) 認知症カフェ同士の交流が少なく、困り事など共有できる場がない。

(目標) 認知症カフェ同士の交流機会を作り、それぞれのカフェが活性化する。

【③対象者】

市内の認知症カフェ担当者

【④具体的な取り組みとスケジュール】

9月の認知症月間までに1回目の認知症カフェ連絡会を開催。

それぞれの認知症カフェが連絡会の運営を順番に行う等、
連絡会のルールを作成する。



I 認知症当事者の居場所づくり

(2) 認知症当事者以外も含めた拠点づくり

【活動期間】

令和6年4月～令和7年3月

【参加人数】

令和6年度 第1回認知症カフェ連絡会(7/26) カフェ6件 12人
第2回認知症カフェ連絡会(12/25) カフェ4件 11人

【結果・課題】

- ・カフェの活動状況、困りごとなどを共有できた。
- ・認知症カフェと認知症地域支援推進員が共同で、
7月保健福祉フェア、9月「認知症月間」のライトアップ期間に啓発活動を行う予定。
- ・認知症カフェの場所の周知されていないため、認知症カフェチラシ改定時に地図の掲載を検討。
- ・認知症カフェ連絡会の運営、順番については次回以降 作成していく。

【具体的な取組】

- ・認知症カフェ連絡会を開催(7/26、12/25) ※次回 7月 福祉フェアまでに開催予定。
- ・認知症カフェチラシを製作、配布。



Ⅱ 認知症の人への支援体制構築に向けた 関係機関との連携会議の開催

医療機関との顔の見える関係づくりを行い、認知症に関する取組の連携を促進させる

(1) 医療関係者との連携構築

【①現況】

- ・R4年度から包括担当ケースについて
兵庫医大との事例検討会を開催継続。

【③対象者】

医療機関・居宅介護支援事業所・
包括・認知症支援推進員等

【②課題と目標】

・課題:

- ・医療機関で、MCIや認知症と診断された方が
どの程度いるのか等把握できていない。
- ・支援や介入が困難なケースがあり、
対応がスムーズにいかない。

・目標:

医療機関との顔の見える関係づくりを行い、
認知症に関する取組みの連携が促進される。

【④具体的な取り組みとスケジュール】

1.加藤心療内科、兵庫医大との事例検討継続開催。
居宅介護支援事業所の参加検討。

7月:精道 9月:潮見 12月:東山手 3月:西山手

2.ほっとナビ、若年性認知症パンフレットや
イベントチラシ等の関係機関への配布。

3.四季の会(兵庫医大MCI院内教室)への参加。

Ⅱ 認知症の人への支援体制構築に向けた 関係機関との連携会議の開催

【活動期間】 1回目:令和6年7月31日(精道事例)
2回目:令和6年10月9日(潮見事例)
3回目:令和6年11月25日(東山手事例)
4回目:令和7年2月4日(西山手事例)



【参加機関・人数】

兵庫医科大学認知症疾患医療センター医師、相談員・医師会・芦屋浜病院・認知症サポート医・
居宅介護支援事業所・包括・認知症地域支援推進員等 各回15名程度。

【具体的な取組】

- ・年間を通して、3ヶ月ごとに各センターより事例を提出いただき、事例を通して医療機関、関係機関との意見交換の実施、専門医によるコンサルテーション受ける機会として実施した
- ・前年度サポート医との関わりを深めるということで加藤心療内科の加藤先生に参加していただいた。また、今年度は居宅事業所からも事例提供いただき、支援・介護問わず参加できる体制作りを進めた。



【結果】

・今年度は居宅事業所からも事例提供いただき、支援・介護問わず参加できる体制作りを進めた。

【課題】

- ・今後も継続的に関係機関との連携を促進し、支援体制の構築を進める
- ・居宅介護支援事業所のケアマネも気軽参加できる体制構築が課題



Ⅱ 認知症の人への支援体制構築に向けた 関係機関との連携会議の開催

若年性認知症の方への支援が多方面にわたるため、多機関協働での支援を促進させる

(2) 若年性認知症の方の支援

【①現況】

- ・R5年度、若年性認知症ネットワーク会議（システム検討会議）を開催し相談受付票を作成、支援フローを決定。
- ・個別支援会議は対応ケースがなく開催には至っていない。

【②課題と目標】

・課題：

- ・若年性認知症の方への支援が多方面にわたリスムーズにいかない。
- ・若年性認知症の方の実態がみえにくい。

・目標：

- ・若年性認知症ネットワーク会議で多機関協働での支援の仕組みと連携が促進される。

【③対象者】

若年性認知症の当事者と家族・医療機関・行政・ひょうご若年性認知症支援センター・障がい者支援機関・社会福祉協議会・包括

【④具体的な取り組みとスケジュール】

1. 芦屋市若年性ネットワーク会議の開催(10月頃)

・個別支援会議：

- ・チーム体制で支援が出来る体制を構築。
- ・既存のケースの振り返り。
- ・新規相談があった場合は都度開催。

・システム検討会議：

- ・構成機関の連携構築と促進、社会問題の抽出、社会資源の創出に関する協議・検討。
- ・若年性認知症の予後についての勉強会。

2. 若年性認知症啓発リーフレットの関係機関への配布

Ⅱ 認知症の人への支援体制構築に向けた 関係機関との連携会議の開催

1. 若年性認知症ネットワーク会議の開催

【開催日時】 令和6年10月28日(月)13:30～15:30

【開催目的】

- ・若年性認知症に関する取り組みを共有し理解を深める
- ・個別ケースを通して各機関の関わりを検討・共有することで、個別支援の質を高める体制をつくる

【参加機関】

兵庫医科大学病院認知症疾患医療センター/仁明会クリニック認知症疾患医療センター/ひょうご若年性認知症支援センター/高齢介護課/地域福祉課/障がい福祉課/障がい者相談支援事業/障がい基幹相談支援センター/社会福祉協議会(第1層地域支え合い推進員)/高齢者生活支援センター(基幹的業務担当)/高齢者生活支援センター(認知症地域支援推進員)
参加者数:21名

【結果・課題】

会議開催時点では新たに把握した個別ケースがなく、既存の個別ケースを題材に個別支援会議とシステム検討会議を併せて行った。若年層への周知啓発の必要性、関係機関との連携等について意見交換、検討を行う中で見えてきた課題について、次年度以降取り組んでいく。今後も継続した会議開催を行うことで連携が図れるよう支援体制を構築する。



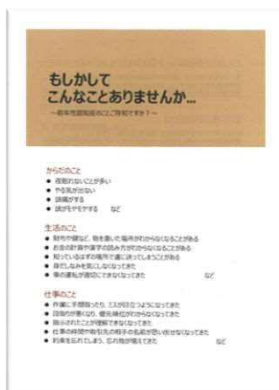
2. 若年性認知症啓発リーフレットの関係機関への配布

【具体的な取組】

各圏域で医療機関、イベント開催時等に住民に配布し、周知啓発活動を行った。

【結果・課題】

一目見て若年性認知症のリーフレットだとわかりにくい可能性があり、手に取ってもらいにくい。
次年度は若年層へ啓発ができるよう医療機関以外の配布先も検討、リーフレットの改訂を行っていく。



Ⅲ 認知症に関する正しい知識の普及啓発

認知症の理解を深め、当事者が住みやすい地域づくりを展開する

【①現況】

認知症の理解を深め、当事者が住みやすい地域づくりを展開する必要がある。

【②課題と目標】

認知症カフェとも連携しながら、広く市民に認知症について啓発する。

【③対象者】

芦屋市民



【④具体的な取り組みとスケジュール】

●7/13 福祉フェアにおいて
パネル展示(認知症カフェの案内も行う)



●9月認知症月間として、図書館(本館)にて認知症に関する書籍の展示・貸出・紹介を行う。

合わせて認知症のパネル展示、チラシを設置し啓発予定
また、市庁舎のライトアップやHP・広報を使い、普及啓発を行う。



●3月 ステップアップ講座企画

実際に認知症の方に接していただく機会やボランティア活動などにつないでいく

Ⅲ 認知症に関する正しい知識の普及啓発

【活動期間】

令和6年4月～令和7年3月

【対象】 芦屋市民

【結果】

- ・福祉フェアでは、子育て世代などもクイズに参加。
認知症に対して関心が薄い世代への普及啓発が行えた。
- ・図書館では「福祉に関係のない場所」を訪れた方にもチラシや、
「あしや認知症ほっとナビ」を手にしてもらう機会となった。

【課題】

- ・今後 引き続き認知症について触れる機会の少ない方にも広く啓発し、
理解促進を進める機会や方法を考えていく必要がある。
- ・認知症の人 本人の声を起点とした普及啓発活動の展開の検討

【具体的な取組】

- ・7/13 福祉フェア 啓発パネル展示とクイズを実施。
- ・9月 「認知症月間」 市庁舎のライトアップ。HP・広報を使い、普及啓発。
図書館で認知症に関する書籍展示・貸出、
認知症サポーター講座(9/18)も実施。
- ・6/3～ 6/27 市役所本庁1階展示スペース、
- 10/1～ 10/29 福祉センターで認知症パネル展を開催。
- ・3/1 ステップアップ講座開催



Ⅲ 認知症に関する正しい知識の普及啓発

～ 市民(住民)向け 認知症講習会 ～ 「ちょっと気になる認知症を学ぶ」の開催支援

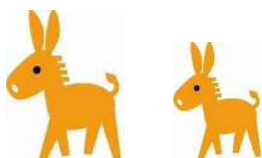
【活動期間】 令和6年7月13日(土) あしや保健福祉フェアのイベントとして実施

【参加人数】 約30名 (講師・スタッフ・途中退席者込)



【具体的な取組】

- ・精神科医 加藤先生による認知症に関する講演会の実施
- ・パネル展示も実施し、認知症啓発となるポスター類や認知症カフェのチラシ等を掲示し周知活動を実施
- ・認知症地域支援推進員の紹介と業務内容の説明(周知・啓発)を実施
- ・参加者に対するアンケートを行い、当事者の会「あしやの会」や認知症地域支援推進員への要望等を収集した



【結果・課題】

・アンケート結果より住民の認知症理解への関心度は高いことが確認できた



・認知症基本法にある「住民の理解の増進等」を積極的に推進する意味でも定期的な開催を目指すべく、その体制づくり継続的に行っていく



Ⅲ 認知症に関する正しい知識の普及啓発

認知症地域支援推進員の活動や様々な社会資源について、福祉専門職に理解してもらう

【①現況】

福祉専門職に対して認知症地域支援推進員の配置や活動、様々な社会資源についての理解が進んでいない。

【②課題と目標】

理解してもらうことで、専門職が改めて認知症に関する正しい知識や理解を深めることが出来、認知症になっても安心して生活ができる地域づくりを促進する。

【③対象者】

福祉専門職



【④具体的な取り組みとスケジュール】

(1) 認知症地域支援推進員の配置や活動の理解について
アンケートの実施

→ ex: 認知症(若年性も含む)のある方への支援に必要な社会資源について

(2) 専門職種向け認知症に関する研修会の開催(12月頃)



報告

Ⅲ 認知症に関する正しい知識の普及啓発

【活動期間】 令和7年1月15日(水)
13:30～15:30 福祉センター多目的ホール

【参加人数】 芦屋市内の福祉専門職等 41人



【具体的な取組】

<テーマ> 認知症の方の意思決定支援

<講演内容> ① 講義(神戸福生会 業務執行理事 山内氏)
② 社会資源の紹介(芦屋市認知症地域支援推進員より)



【結果・課題】

下記2つの社会資源を紹介とした。

- ① 認知症当事者の居場所「あしやの会」
- ② 市内にある認知症カフェ

アンケート結果から、紹介した社会資源を知らない専門職が多く、さらなる周知が必要と分かった。

